

【別表A】 2025年度 特定共同研究（A）課題一覧表

課題番号 プロジェクト名	○ 研究代表者名 ・ 地震研担当教員名	研究内容と参加条件
2025-A-01 災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究	○研究代表者は付表A-01に示す ・地震火山研究連携センター長	2023年12月に科学技術・学術審議会より建議された「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第3次）の推進について」（https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu6/toushin/1413118_00006.htm）に基づき、「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第3次）」（以下、「地震火山災害軽減研究」）の6つの主要項目（1. 地震・火山現象の解明のための研究、2. 地震・火山噴火の予測のための研究、3. 地震・火山噴火の災害誘因予測のための研究、4. 地震・火山噴火に対する防災リテラシー向上のための研究、5. 分野横断で取り組む地震・火山噴火に関する総合的研究、6. 観測基盤と研究推進体制の整備）について、42の国立大学法人・国立研究開発法人・政府機関等の研究者が共同で約160の研究課題を実施しています。 東京大学地震研究所では、地震火山災害軽減研究に参加していない研究機関の研究者が、地震火山災害軽減研究の中の大学の研究課題（付表A-01。詳細は下記URL参照。）に参加するための経費の補助を行います。参加希望者は、参加を希望する研究課題代表者と連絡を取り、様式A-2aに従い、参加の申請をしてください。 研究課題一覧： https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/YOTIKYO/_/f/2024/05/project_r6_10.html
2025-A-02 地球深部の構造とダイナミクス	○大林 政行 （海洋研究開発機構） ・清水 久芳	地球深部の構造とダイナミクスの解明を目的としたグローバルスケールの観測研究を共同で実施する。海半球観測ネットワークを継承する太平洋地域の地球物理総合観測ネットワークによる長期連続観測（広帯域地震観測、高精度地磁気観測、海底ケーブルによる観測など）や、陸域および海域における地震・電磁気などの機動的観測を行い、これらの観測データを駆使して、地球内部の構造とダイナミクスの総合的な理解に貢献する。 予算の裏付けとなるプロジェクト名(A)： 事業費「国際的地震観測網への寄与」 事業費「海底ケーブルによる地球物理観測研究 TPC-1, TPC-2」
2025-A-03 人工知能と自然知能の対話・協働による地震研究の新展開	○長尾 大道 （地震研究所） ・長尾 大道	地震分野においても人工知能技術の導入が急速に進められているが、「自然知能」と言うべき経験豊かな地震学者の頭脳を凌駕するまでには至っていない。本研究課題では、「人工知能と自然知能の対話と協働」をテーマに、人工知能と自然知能の協働による地震・低周波微動検出手法の深化、および地震モデリング手法の共進化をねらい、地震研究の新展開と地震防災に貢献する。 参加条件： 本研究課題の裏付けとなっているプロジェクト「人工知能と自然知能の対話・協働による地震研究の新展開」(SYNTHA-Seis)の趣旨を理解し、その推進に貢献すること。SYNTHA-Seisの詳細については、以下を参照。 https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/project/SYNTHA-Seis/ 予算の裏付けとなるプロジェクト名(A)： 文部科学省「情報科学技術を活用した地震調査研究プロジェクト」(STAR-Eプロジェクト) 研究課題「人工知能と自然知能の対話・協働による地震研究の新展開」(SYNTHA-Seis) (中核機関: 東京大学地震研究所, 研究代表者: 東京大学地震研究所 長尾大道, 研究期間: 令和3年度～7年度)

【付表 A-03】

研究課題「人工知能と自然知能の対話・協働による地震研究の新展開」
サブ課題一覧

番号	課題代表者	代表機関	研究課題名
A	伊藤 伸一	東京大学地震研究所	人工知能技術の活用による地震波形データ解析手法の開発研究
B	寺田 吉壱	大阪大学大学院基礎工学研究科	最先端ベイズ統計学の活用による地震モデリング手法の開発研究